

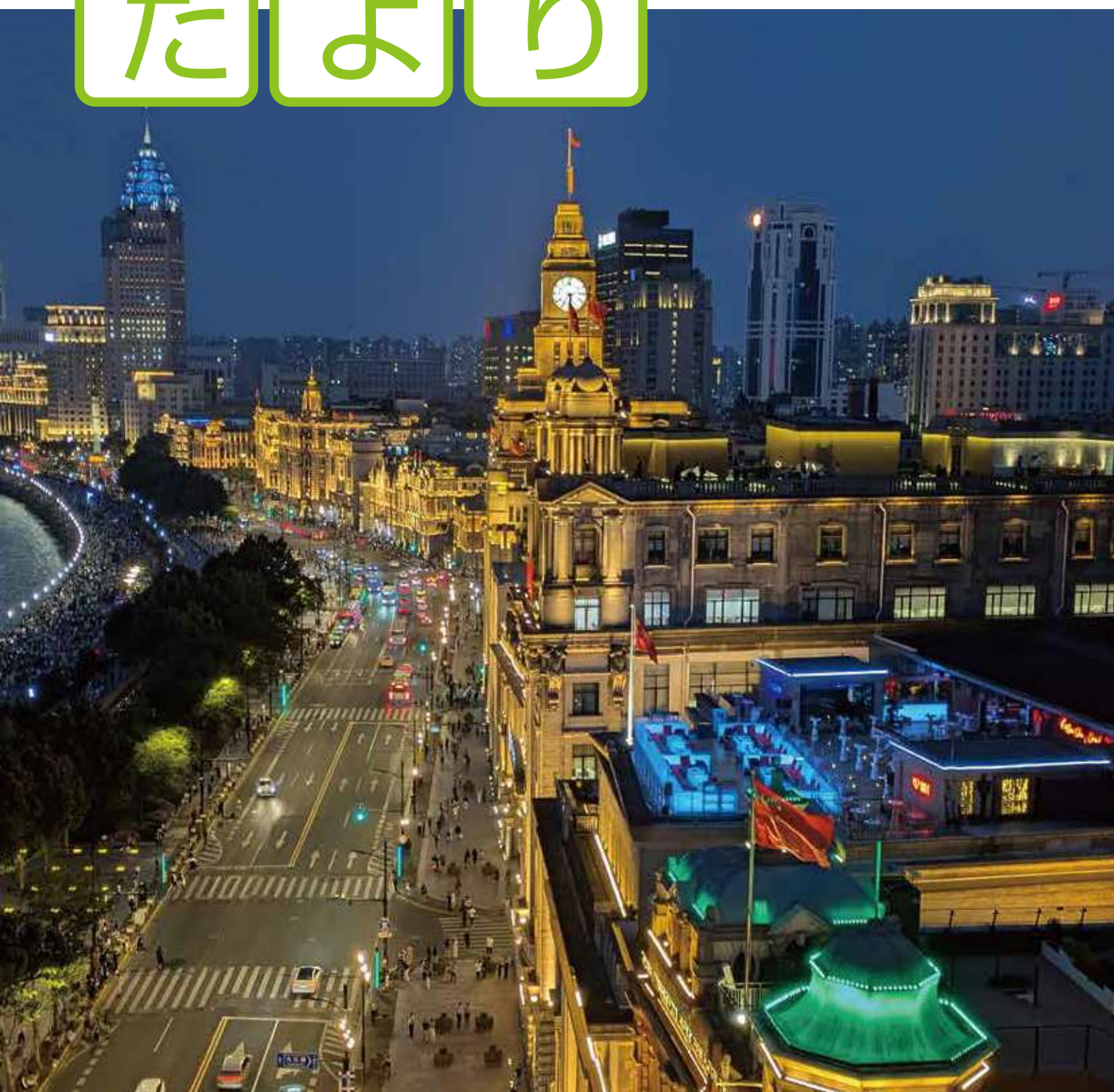
Appointment and Web-based
Communication Division

連携室
だより

2025年8月



—Vol.59—



da Vinci(低侵襲ロボット支援手術)

胃癌に対するロボット手術の導入

外科副部長 山本 和幸

当科では2022年3月より大腸癌に対しロボット手術を導入しました。ロボット手術は手振れ補正機能、多関節機能、3D高解像度の映像により従来の腹腔鏡手術と比較し、より質の高い手術の提供が可能となりました。当院では現在、ほぼ全ての大腸癌に対し、ロボット手術を施行しており、年間約120例のロボット支援下大腸癌手術を施行しています。これは全道第3位の手術実績となっており、非常に多くの大腸癌患者さんにロボット手術を提供できております。

胃癌に対しては2024年6月より導入し、現在までの約1年で40例施行致しました。胃癌に対するロボット手術の利点は大腸癌よりもさらに大きく、脾臓などの術後合併症のリスクを低減できることがわかっております。また、他臓器浸潤や高度リンパ節転移を伴う進行胃癌症例に対しても安全に確実に病変部位を切除することが可能となりました。当院での導入前にすでに北大病院で執刀経験があり、円滑に導入することができました。当院での導入当初の14例はプロクターが執刀しました。幽門側胃切除術6例、噴門側胃切除術4例、胃全摘4例に対し、ロボット手術を施行し、手術時間は幽門側胃切除術243分、噴門側胃切除術250分、胃全摘304分、出血量はいずれも少量で術後合併症はありませんでした。

当院は現在、ロボット手術を非常に積極的に行っており、それを学びに多くの修練医が研鑽を積みまわっております。すでにロボット支援下大腸癌手術は若手の修練医がメインで執刀しており、指導医と遜色ない安定した手術成績となっています。胃癌に対しても導入期の成績が安定したため、現在はプロクター指導下で修練医がメインで執刀しております。ただし、胃癌に対

するロボット手術は大腸癌手術よりも技術的難易度が高いため、ロボット支援下大腸癌手術を30例以上執刀した上で、胃癌手術を執刀することとしており、導入期の14例以後も安定した手術成績が得られております。

現在、当院では胃癌・大腸癌に対し、非常に多くのロボット手術を施行しております。それに伴い、ロボット手術を習得したい若手の修練医が多く、まだまだ症例数が足りない状況です。

ロボット手術を希望される胃癌・大腸癌患者さんがいらっしゃいましたら、質の高いロボット手術を提供致しますので、ぜひとも当院へご紹介をお願い申し上げます。

写真:ロボット支援下胃癌手術の実際
執刀医:卒後10年目
第1助手:卒後15年目
第2助手:卒後3年目
指導医:卒後20年目



旭川赤十字病院乳腺外来では、乳がんをはじめとする乳腺疾患を対象に、検診から診断、治療、そして術後のフォローまで、一貫した体制で診療を行っています。

当外来の一番の強みは、外来日を週4日に拡充していることです。これにより、紹介から診察までの待機時間が短く、患者さんをお待たせしません。乳がん診療において「早く知りたい」「早く治療を始めたい」という患者さんの気持ちに寄り添える体制を整えています。

また、乳腺専門医と女性医師が常勤しており、専門性と話しやすさの両立を大切にしています。患者さんが安心して相談できる雰囲気づくりを心がけている点も、私たちの特徴です。

治療においては、乳房温存術や乳房切除術に加えて、自家組織による乳房再建にも対応しています。当院に

は乳房再建に長けた形成外科医が常勤しており、再建手術へのアクセスがよいことも大きな特徴です。旭川市内ではこうした体制を整えた病院は限られており、再建を希望される患者さんにとって貴重な選択肢となっています。

診療日を増やしたことにより、これまで以上に多くの患者さんにご来院いただいております。手術件数も着実に伸びています。多くの地域医療機関の先生方から患者さんをご紹介いただいていることに、心より感謝申し上げます。

これからも、地域の皆様に寄り添いながら、安心して受診・治療していただける乳腺外来を目指してまいります。乳房に関する不安や症状がありましたら、ぜひお気軽に当院乳腺外来までご相談ください！

《外来担当医師》

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
乳腺外来 午 前	吉田	吉田・東海林	休診	吉田	吉田



乳房のしこり・違和感・痛みなど、気になる症状はありませんか？

「気になるけど、どこに相談したら…」そんな時は私たちにお任せください。



乳腺専門医、女性医師が診療いたします。
乳房再建の経験豊富な形成外科医が在籍。
北海道大学病院乳腺外科と連携あり。

旭川赤十字病院 乳腺外科

0166-22-8111（代表）

旭川市曙1条1丁目

診療受付時間：月/火/木/金（8:00-11:00）

最新の肥満症治療

副院長/糖尿病・内分泌内科部長 安孫子 亜津子

我が国のBMI $\geq$ 25の肥満者は男性30%以上、女性の20%以上とされています。

当院では「減量サポート・外科治療センター」を開設し、高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を行い、その前後の管理を当科で行って関わっております。2023年末から肥満症に適応となる注射薬が登場し、当院では旭川市内で最も早くから治療導入を行っておりますので、連携病院の皆様にご紹介いたします。

【肥満症の診断】

「肥満症」と診断されるのは、BMI $\geq$ 25で、①肥満に起因しないし関連し、減量を要する健康障害を有するもの、②健康障害を伴いやすい高リスク肥満(内臓脂肪型肥満)のいずれかである。肥満症関連の11の健康障害を表1に示す。BMI $\geq$ 35は高度肥満と定義されている。高度肥満者では社会的問題や、精神的問題をもっているものも多く、二次性肥満が存在している場合もあるため、鑑別診断することが重要である。

表1.肥満症の診断に必要な健康障害

- ①耐糖能障害(2型糖尿病・耐糖能異常など)
- ②脂質異常症
- ③高血圧
- ④高尿酸血症・痛風
- ⑤冠動脈疾患：心筋梗塞・狭心症
- ⑥脳梗塞・一過性脳虚血発作
- ⑦非アルコール性脂肪性肝疾患
- ⑧月経異常、女性不妊
- ⑨睡眠時無呼吸症候群(SAS)・肥満低換気症候群
- ⑩運動器疾患(変形性関節症：膝・股関節・手指関節、変形性脊椎症)
- ⑪ 肥満関連腎臓病

【肥満症の治療目標】

減量は肥満症治療の目的ではなく、あくまで手段であり、その目的は肥満に起因・関連する健康障害の予防や改善である。肥満症の減量目標はBMI $\geq$ 25では3～6ヶ月で3%の減量を目指す。高度肥満症になると減量目標は5～10%と大きくなる。

行動療法としての食事療法、運動療法がまず必要であり、当院では初診時から看護師や管理栄養士による食事内容の聞き取りを行い、25kcal/kg×目標体重/日以下の食事指導を開始する。

【肥満症の新たな薬物療法】

2023年12月から「ウゴービ®(セマグルチド)」が肥満症治療薬として登場した。GLP-1受容体作動薬であり、これまでは2型糖尿病の治療薬(オゼンピック®)として使用されていたセマグルチドが、肥満症ではさらに高用量で使用が可能となった。日本人を含む東アジア人を対象としたSTEP6試験の結果によると、ウゴービ2.4mgと1.7mgの投与により、平均BMI約32の対象者で、68週で2.4mgでは-13.2%、1.7mgでは-9.6%の減量が認められている。

現在当院では最長で1年を超える使用例がいるが、BMI43以上で使用を開始し、約8kgの減量が認められており、内科通院開始時から2年で18kgの減量が得られている。昨年12月から長期処方が可能となり、使用症例も増えてきている。

2025年4月から「ゼップバウンド®(チルゼパチド)」が新たな肥満症治療薬として登場した。GLP-1/GAP受容

体作動薬であり、2型糖尿病の治療薬(マンジャロ®)として使用されていたチルゼパチドが、肥満症で保険適用となった。SURMOUNT-J試験によると、ゼップバウンドの投与で平均BMI約33の対象者で、75週で15mgでは-22.7%、10mgでは-17.8%の減量が認められている。

どちらの薬剤も週1回の注射薬であり、投与方法は比較的簡単である。4週ごとに用量を漸増していき、腹部症状や体重変化を勘案しながら高用量を目指していく。投与初期や増量時には悪心や食欲減退などの腹部症状が認められることが多く、注意を要する。

いずれの薬剤も最適使用推進ガイドラインにより、投与対象者と、使用できる施設基準が定められている。

1. 投与対象となる患者：1)高血圧、脂質異常症、または2型糖尿病のいずれか1つ以上の診断がなされ、かつ①BMI $\geq$ 27で2つ以上の肥満に関連する健康障害を有する。または②BMI $\geq$ 35。2)適切な食事・運動療法を計画し、6ヶ月以上実施しても十分な効果が得られず、この間に2ヶ月に1回以上の頻度で管理栄養士による栄養指導を受けている。
2. 投与可能な施設：1)内科、循環器内科、内分泌内科、代謝内科又は糖尿病内科を標榜している保険医療機関。2)施設内に、以下の<医師要件>に掲げる各学会専門医いずれかを有する常勤医師が1人以上所属しており、本剤による治療に携われる体制が整っていること。3)<医師要件>に掲げる各学会のいずれかにより教育研修施設として認定された施設であること。4)常勤の管理栄養士による適切な栄養指導を行うことができる施設であること。
3. 医師要件：1)高血圧、脂質異常症又は2型糖尿病並びに肥満症の診療に5年以上の臨床経験がある。2)高血圧、脂質異常症又は2型糖尿病を有する肥満症の診療に関連する日本循環器学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会のいずれかの学会の専門医を有していること。
4. 投与期間：ウゴービ® 最大68週間、
ゼップバウンド® 最大72週間

【ご紹介時の留意点】

肥満症患者さんに減量治療をお勧めする場合には、初診時からすぐに薬剤投与開始できませんので、しばらく通院をしていただく必要があることをご説明ください。栄養相談を2ヶ月に1回以上受けていただき、フォーミュラ食なども利用しながら、行動療法でどれくらい減量が可能であるか、健康障害の程度や、薬剤の調整、さらに二次性肥満の鑑別のための検査も行います。外来通院のみで減量が難しい場合には入院で食事療法や運動療法を体験することでも大変効果的です。さらに当院では外科手術の選択肢もありますので、減量のサポートが必要な患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

肥満症治療で適応のある薬剤

①ウゴービ® SDペン
(セマグルチド)



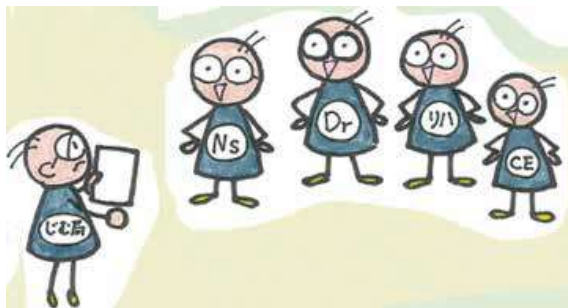
②ゼップバウンド® アテオス
(チルゼパチド)



当院のクリティカルケアチームを紹介します!

第二救急科部長 川田 大輔 ICU・CCU師長 大塚 操

Rapid Response Team(RRT)は、患者の重症化を未然に防ぎ、予期せぬ急変を防ぐ医療安全システムです。当院では「院内迅速対応チーム」という名称で2022年4月に立ち上げ、医師・看護師・理学療法士・臨床工学技士で活動を開始しました。



全国では様々な特色を持ったRRTが活動しています。当チームの特徴は、起動基準がシンプルなことです。起動基準の多くは「血圧●●mmHg以下、尿量●●CC以下…」など複数のバイタルサインを組み合わせる基準にしています。当チームは、院内のスタッフがチームを活用しやすいよう、『頻呼吸・呼吸パターンの変調、原因不明の発熱、原因不明のせん妄、“何かおかしい”と感じた時』としました。また、病棟をラウンドし、起動基準にあたる患者がいないか、確認する活動を行い、チームのアピールを行っていききました。

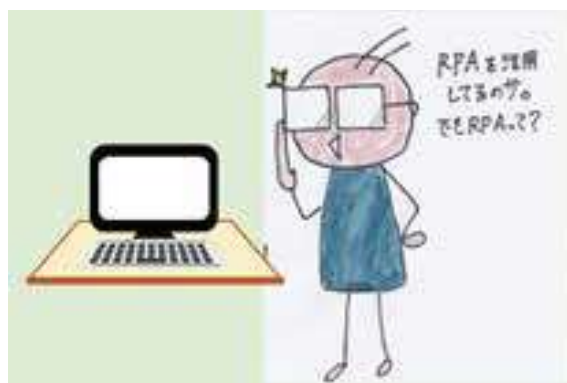


2つ目の特徴は、介入した患者の状況が、継続して介入が必要と判断した場合、安定するまで、介入を続けることです。

3つ目の特徴は、人工呼吸器(NPPVやNHFを

含む)管理を必要とする患者をサポートする「呼吸サポートチーム」、ICU・CCU、HCUを退室した患者の、退室後の状態を確認し、ICU・CCU、HCUへの再入室を防ぐための「Critical Care Outreach Team(CCOT)」としても活動していることです。そして、必要であれば、ICU・CCUへの移動も検討しています。

2024年度、チームが介入した患者は464名、ラウンド回数はのべ847回という実績を残しました。この活動は、院内での予期せぬ急変・重症化を防ぐことに繋がっていると思っています。チームが活動を続ける中で、院内に協力してくれる部門やスタッフが増えてきました。現在、薬剤師、管理栄養士がチームに加わり、多方面から介入をすることができるようになっています。また、デジタル推進室が、電子カルテの「経過表」からスコアを計算するシステムを構築してくれました(RPAというらしい)。4月から運用を開始しています。これにより、スタッフから連絡を待つだけでなく、チームから状態が悪化傾向にある患者を把握し、より早期から介入することができるようになりました。



今後も、チームの活動を通し、質の高い医療・ケアの提供に寄与していく所存です。

「大阪・関西万博」赤十字パビリオンへの職員派遣について

薬剤部 皆木 優門

2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」に出展されている、国際赤十字・赤新月館（赤十字パビリオン）に、運営スタッフとして参加して参りました。6月25日からの5日間という短い期間でありましたが、今年の関西の梅雨明けが6月27日であったということで、じっとりとした暑さと、からりとした暑さのどちらも体験したわけであり、道民には慣れない暑さの中でありましたが、大阪万博では1日の来場者数が20万人と、過去最多数を更新しておりました。赤十字パビリオンにおきましても、当初の予想来館者数を上回り、多くの方々に来ていただけました。

赤十字パビリオンは、「人間を救うのは、人間だ。～The Power of Humanity～」という人道理念を、一人でも多くの方々に感じていただき、人道支援活動の第一歩を踏み出す、後押しになれることを願い出展しております。パビリオン内は、半球型ドームシアターが設置されており、そこで日本や世界での人道危機と支援の現状を、映像にて体験していただきます。ショップもあり、赤十字のパビリオンデザイングッズ、「ムーミン」グッズ、日本赤十字社の公式キャラクターである「ハートラちゃん」のグッズを取り揃えております。

私はショップ担当でありまして、人生初のレジ

打ちをしておりました。パビリオンを周った方々から、「たまたま予約が取れて来たけど、とても良かったです。」「グッズを買って貢献します！」などのお声をいただきました。また、多かったお声の一つに、「なんで赤十字にムーミンのグッズがあるの？」がありました。私自身も、今回スタッフになるにあたり知りましたが、ムーミンの原作者であるフィンランドのトーベ・ヤンソン氏は、ムーミン誕生より前に、フィンランド赤十字社のポストカードのデザインを行うなどの活動をされていたようです。ムーミン誕生後も、そのイラストやデザインは、赤十字活動の支援のためにも使用されており、今につながっているとのことでした。

来館していただいた方々にとって、人を思いやることの大切さを改めて感じ、誰かのために何かしたいという一歩を、踏み出すきっかけとなれば嬉しく感じます。日赤創立者の佐野常民氏は、1800年代のパリやウィーンで開催された万博にて、赤十字パビリオンを訪れております。そこで赤十字の存在を知り、日赤の創立と日本での人道支援活動の展開へとつながったとされております。大阪・関西万博は10月13日まで開催予定です。行かれる際は、ぜひ赤十字パビリオンにも足をお運びください。



動画配信を開始しました！

「旭川赤十字病院 市民公開講座」と「医療連携の集い」の動画配信を昨年度開催分より開始いたしました。今回の「連携室だより」で紹介させていただいた「乳腺外来の紹介」に関連した「乳

がん」のお話(7月5日開催)につきましても配信しております。あわせまして「連携室だより51号」(2023年10月発行)でも「乳腺外科」「乳房再建術」の紹介をさせていただいております。



《動画配信》

当院HP ⇒ 地域の皆様へ ⇒ 市民公開講座のご案内



「乳腺外科」「乳房再建術」の紹介(連携室だより51号)は
⇐こちらのQRコードで



《お詫び》

2025年5月に発行した第58号の「臨床研修医の紹介」の記事におきまして、掲載写真に不備がございましたので改めて掲載させていただきます。



戸羽 萌生(トバ メグミ)

- 出身地/神奈川県
- 出身大学/札幌医科大学
- 趣味/犬と遊ぶこと、食べる

一日でも早く役に立てる人材になれるよう日々精進してまいりますので、ご指導よろしくをお願いします。



府川 里咲(フカワ リサ)

- 出身地/旭川市
- 出身大学/旭川医科大学
- 趣味/散歩、スキー

真剣に取り組み日々成長できるよう精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

人事消息

新任医師

令和7年5月1日付

研修医

いとう タカヨシ

伊藤 貴理

退職者

令和7年4月30日

整形外科 医師

笹井 健吾

令和7年5月31日

麻酔科 医師

山崎 偉道

令和7年5月31日

腎臓内科 医師

宮森 大輔

旭川赤十字病院 公式SNSの紹介



2024年7月1日より、旭川赤十字病院の【公式】InstagramとX(旧Twitter)を開設いたしました。地域の皆様に当院のことを広く知っていただきたく、赤十字活動、院内行事、お知らせ等を不定期に発信していきます。ぜひフォローしてください。

<Instagram>https://www.instagram.com/red_cross_asahikawa/

<X>https://x.com/asahikawa_rch

理念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し、質の高い医療を提供します

基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
2. 急性期医療を中心に安全で安心できる診療を進めます
3. 救急医療の充実に努めます
4. 地域の医療機関、介護・福祉施設との連携を推進します
5. 国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
6. 職員の教育、研修を充実させます
7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

私たちは患者さまの権利を尊重します

適切に医療を受ける権利

医療に関して知る権利

医療行為を自分で選ぶ権利

プライバシーを保障される権利

人権を尊重される権利

セカンド
オピニオンを受ける権利

旭川赤十字病院職員行動規範 5つの約束

1. 私たちは、来院される方と職員に笑顔であいさつをします
2. 私たちは、初対面の患者さまに、自己紹介をします
3. 私たちは、電話の最初に、部署と名前を名乗ります
4. 私たちは、患者さまに診察や説明をしたあとに「何かわからないことやご質問はありませんか?」とお尋ねします
5. 私たちは、院内で迷われている皆様にお声掛けをし、ご案内します

発行

旭川赤十字病院 地域医療連携室

〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号

tel.(0166)22-8111(代表) fax.(0166)22-8287(直通)

URL <http://www.asahikawa.jrc.or.jp/> Email renkei@asahikawa.jrc.or.jp